

# 大通・幸町地区「コミュニティ施設」整備事業について報告

## 設置条例及び指定管理者募集要項等を協議

12月12日に開催された第10回全員協議会では、初めに、現在建設中の「大通地区コミュニティ施設」の工事進捗状況について報告。スーパーのレジ関連備品で増額補正について協議。次に施設の設置及び管理を定める条例制定の協議では、スーパーやハイヤーの月額利用料に議論が集中。この条例については、12月定例会に追加提案されることが示されました。また、施設の指定管理者募集要項等については、指定管理料の金額の妥当性などについて議論を交わしました。

### 第10回全員協議会

(12月12日)

#### 施設整備の進捗状況について

##### 町の説明

工事の進捗状況は、工程表のとおり進んでいます。備品の選定作業について、スーパー側との打ち合わせを終了。レジ関連で、当初はマスターレジとセルフレジで500万円程の予算計上でしたが、会計機や自動釣銭機等の費用で660万円の増額補正が必要です。

##### 議員の質疑と町の回答

Q スーパーは、この事業にどれ位の自己負担があるのか。

A まだ金額は決まっていますが、購入予定の備品等(類)で、1000万円を超えると聞いています。

Q キャッシュレス化の概要について伺いたい。

A 具体的な決済方法は示されていませんが、スーパー側で検討し、キャッシュレスに対応します。ポイントについては、今後詰めていくこととなります。

#### 大通地区コミュニティ施設 条例の制定について

##### 町の説明

この条例は、商業施設と交通拠点施設、図書館を複合することで、多世代が自由に利用でき、新たなにぎわいを生み出す施設の設置及び管理を定めた条例で、12月定例会に追加提案の予定です。

図書館を除く施設は、指定管理者を置いて管理。積み木広場等の交流エリアの利用料金(1時間850円)については、町の認定団体等は減免を考えています。テナント区画の利用料金(スーパー月493千円、ハイヤー25.7千円)は上限額として定め、ここから資材高騰分等を考慮した減額を考えています。

##### 議員の質疑と町の回答

Q スーパー部分が公の施設になり得るか。

A 法務支援室に問い合わせ、問題ないと回答いただいています。

Q なぜ指定管理制度をとったのか。

A 事務の煩雑化を避けるためです。

Q イベント等の駐車場使用料金については、どうなっているのか。

A 指定管理者の裁量の中で決定していくと考えています。

Q スーパー、ハイヤーの利用料金の減免について。

A 他の補助制度と合わせて考えていますが、安易に減免することはありません。

Q テナント料算定にあたり、備品の償却期間17年の根拠は。

A 備品によって異なるので、総務省で定めている「その他の店舗」17年の規定に当てはめています。

Q わかりやすい愛称を。

A 町民の皆さんに募集したいと考えています。

#### 大通地区コミュニティ施設 指定管理者募集要項及び業務 仕様書について

##### 町の説明

公の施設として、安全かつ円滑な管理を行うため指定管理者を公募するための募集要項及び仕様書です。指定期間は、令和5年4月1日から5年間。指定管理料は年間800万円。その内訳は、共有部分の光熱水費や保守点検費用と人件費1人分で算定しました。町内の関係団体からの応募も

期待しています。

##### 議員の質疑と町の回答

Q 図書館を開いているときは、必ず管理者がいるのか。

A 常駐というところまでは指定しないと考えています。

Q スーパー側へ業務委託できないか。指定管理料800万円は、魅力がないのではないか。人件費は1・5人分必要ではないか。

A スーパー運営者は、地元産品の販売にも力を入れると聞いており、それを委託するというよりは、什器類の使用料を減額する形で考えていますが、管理料について練り直し、検討します。

Q 指定管理にあたり、募集要項「実績を有する法人」の文言があるが、町内に該当する事業所があるのか。

A 門戸を狭めているので、この文言は見直し、観光協会等とも連携していきたいと考えています。



## 常任委員会



運動広場野球場外野芝生改修工事現場の現地視察 (11/4)



木質バイオマスセンター建設工事現場の現地視察 (11/7)

### 総務文教常任委員会

#### 第5回 (11月4日)

- ・ 町内視察結果について
- ・ 議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について
- ・ 特別職の職員の給与に関する条例の一部改正について
- ・ 職員の給与に関する条例の一部改正について

#### 第6回 (12月5日)

- ・ 地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について
- ・ 大通地区コミュニティ施設の設置及び管理に関する条例の制定について
- ・ 使用料条例の一部改正について
- ・ 地域おこし協力隊設置条例の廃止について
- ・ 図書館条例の制定について
- ・ 図書館運営計画について
- ・ 財産の取得について (新図書館用備品購入)
- ・ 新学校給食センター整備基本計画について

### 産業福祉常任委員会

#### 第5回 (11月7日)

- ・ 町内視察結果について

#### 第6回 (12月6日)

- ・ 大型運転免許等取得費用一部助成事業の実施について
- ・ 簡易水道事業の設置等に関する条例の一部改正について
- ・ 上下水道事業職員の給与の種類及び基準に関する条例の制定について
- ・ 木材工芸館木質バイオマスボイラー施設建設工事の設計変更について
- ・ 木質バイオマスセンター建設工事の設計変更について

### 議会広報常任委員会

#### 第9回 (12月19日)

- ・ 全員協議会チラシの編集について

#### 第1回 (1月16日)

- ・ 議会報188号の編集について

### 議会運営委員会

#### 第7回 (11月29日)

- ・ 第6回津別町議会臨時会の

運営について

- ・ 令和3年度各会計決算の認定について

#### 第8回 (12月9日)

- ・ 第7回津別町議会定例会の運営について
- ・ 意見書等の取り扱いについて

#### 第9回 (12月15日)

- ・ 第7回津別町議会定例会の運営について
- ・ 追加議案の取り扱いについて

## 議会の録画映像を配信しています

インターネットを利用した定例会の録画配信を行っています。

町のホームページにアクセスしてご覧ください。

※「YouTube」による配信です。



QRコードからもアクセスできます。



## 町長行政報告

報告された主な事項

### 第6回臨時会 (11月29日)

- 北海道オール・オリンピアンズとの連携協定締結式
- つべつ紅葉マラソン大会
- まちづくり懇談会
- 簡易水道事業及び下水道事業に係る消費税及び地方消費税の確定申告内容の誤り
- 空き家対策事業における空き家等の除却事業に係る国庫補助金
- 高齢者に対するお祝い
- 第72回社会を明るくする運動「ふれあい町民の集い」兼「津別町連合PTA研修会」の開催
- 津別町立学校における新型コロナウイルスウィルス感染症に伴う学校閉鎖等
- 二水郷との交流

### 第7回定例会 (12月15日)

- 「網走川流域の会」の環境大臣賞の受賞
- ほくでんエコエナジー株式会社様からの寄附
- マインバーカード申請支援事務の委託
- 丸玉木材株式会社様からの寄附
- 北海道大学の課外活動団体「HALCC (ハルク)」による成果報告会



# 産業福祉常任委員会道内行政視察報告

令和4年10月4日～6日 恵庭市、古平町、旭川市

## ○参加者

渡邊委員長・山田副委員長・篠原委員・小林委員・鹿中委員



民間と公共の複合施設「えにあす」

## 民間と公共の複合施設「えにあす」について 恵庭市

行政側の姿勢として、公共機能の集約はもとより、公共による建物は整備せず民間建設による賃貸借の導入と、土地は民間建設事業者に「事業用定期借地権」とし、市が土地を保有し続けることで事業継続を図っているなど、新たな手法を取り入れていた。利用状況では、時間ごとの幅広い年代層が利用されるよう工夫がなされていた。また、運営も「えにあす運営会議」として、民間開発事業者が主宰し、恵庭市や図書館、コンビニなどのテナントが定期的に開催し、夏まつりなど共同イベントを行っている。民間主導の運営会議なので、財源

確保についても議論しているなど、行政に頼らない運営も評価できる点であった。

## 障がい者の就労支援について 古平町

社会福祉法人古平福祉会が、町の多くの障がい福祉事業を担っており、視察目的であった就労支援では、基幹産業の水産加工業を中心に町有施設の維持管理や清掃業務などの職場を確保している。そして住居は33か所のグループホームを用意しているのとこのことで、「仕事」「住みか」「生活支援」の全てを福祉会が担っていることに驚いた。

B型就労事業所が多い現状については、A型就労では労働時間も長く耐えられないと聞き、改めて現実を再認識した。生活介護や就労継続B型事業所など障がい福祉サービスの利用者は300人を超えていることを聞くと、この町では障がい者が町を支えている面があると感じた。そして、福祉会が経営している寿司屋やマリンハウスは、閉店した事業所を福祉会が町の活性化のために福祉事業所として再開するなど、福祉サービスというだけでなく町の活性化にも

障がい者が関わっていると感じた。地域共生社会の時代だが、まさに当たり前に障がい者が暮らしている町・古平町。津別町においては、まだまだ障がい者の働く場は限られており、古平福祉会のような大きな法人もない中で、町の果たす役割は大きいと感じる。町、企業、障がい福祉サービス事業所等との連携をどう図っていくのか取り組みの課題でもある。

## 設立から人材育成や地域連携の現状について 旭川市

北の森づくり専門学院

初の卒業生となった令和4年3月の卒業生32人に対し、94企業、62名の求人があったということ、その求人の多さに驚いたと同時に、林業関係の担い手不足の現れだと実感した。

学校の目指すところは、林業・林産業の現場で即戦力となる人材養成とあわせ、将来的に企業の中核を担う地域に根差した人材を養成するを目標としており、視察時も、林業機械の操作シミュレーターを林業先進地域のフィナンサーから導入した教育プログラ



北の森づくり専門学院

ムなど見ることができ、反復練習することで実践力を身に付けることを理解した。

学生アンケートでは、インターンシップの取り組みが重要で、就職希望につながる傾向があることから、愛林のまち宣言の津別町として、学校の実習施設としての連携とあわせ、卒業生の受け入れや津別町からの入学者を実現することに力を注いでいくことが求められると感じた。

最後に、入り口に卒業生の一言の中に「いずれはドイツで林業を」というのがあった。ドイツは、林業が盛んで年収も高く林業従事者の社会的地位も高いと聞いており、北海道の林業もドイツのように憧れの職業となることが今後に向けて重要になると考える。

## 議会日誌

### 10月

- 14日 オホーツク圏活性化期成会石北本線部会(遠軽町)
- 21日 オホーツク圏活性化期成会秋季要望(札幌市)
- 25日 第2回決算審査特別委員会
- 28日 北網ブロック市・町議会正副議長会議(美幌町)
- 31日 道東4地区管内町村議会議長会連絡協議会(網走市)

### 11月

- 4日 第5回総務文教常任委員会
- 7日 第5回産業福祉常任委員会
- 8日 オホーツク町村議会議長会役員会(東京都)
- 9日 町村議会議長会全国大会(東京都)
- 10～11日 北網ブロック町議会議長会府県行政委託調査(東京都、千葉県)
- 14日 第9回全員協議会
- 18日 北網ブロック町議会議員研修会(置戸町)
- 24日 北海道町村議会議長会正副会長会議・公務災害補償等組合議会臨時会・理事会(札幌市)
- 29日 第7回議会運営委員会  
第6回津別町議会臨時会

### 12月

- 5日 第6回総務文教常任委員会
- 6日 第6回産業福祉常任委員会
- 9日 第8回議会運営委員会
- 12日 第10回全員協議会
- 15日 第7回津別町議会定例会  
第9回議会運営委員会
- 16日 第7回津別町議会定例会
- 19日 第9回議会広報常任委員会

### 1月

- 16日 第1回議会広報常任委員会

## 議会報告会 を開催します

津別町議会では、議会の役割や活動内容を広く町民の皆さんに知っていただく機会として、下記のとおり「議会報告会」を開催します。参加者との意見交換の時間も予定していますので、多くの方のご参加をお願いします。

開催日時・開催場所

日時 2月11日(土)

午後1時～

場所 役場・健診ホール

(1時間30分程度)

問い合わせ先

津別町議会事務局 TEL 77-8393

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、発熱または風邪の症状がある方はご遠慮ください。なお、参加される方はマスク着用をお願いします。

## 議会を傍聴してみませんか

会議当日の受け付けで傍聴できます。気軽にお越しください。

※日程は、町のホームページで確認していただくか、議会事務局へお問い合わせください。

## は ぐ る ま

「幸せってなんだろう」と考えるときがある。私の幸せは「家族と一緒に健康で暮らすこと」である。昨年はいろいろあって特にそう感じた。

今、津別で暮らしている方の中には、子どもさんやお孫さんが遠く離れて暮らしている方も多いと思う。津別に残っている町民の方の想いは「困ったことはないか、元気にしているか」だと思ふ。視点を変えてみると遠く離れている子どもさんたちも、両親たちが「不自由なく健康で暮らしているか」と津別の方を案じているはずだ。

町や議会は、こういった遠く離れた方達の想いも受け止めて、また、現在町で暮らしているさまざまな家族形態の方達の想いも受け止めて「人口減少によって起こるこの町の不都合・不自由」を少しでも解消すべく、骨身を削っていかねばならないと思う。

暮れからお正月にかけて津別にも多くの方が帰省してきた。この方たちに「津別っていい町だなあ、おやじたちもこれなら安心だ」と思っていただけ、帰って来なくなるまちづくりを進めていきたい。(佐藤)

